

文化交流館 新刊図書・ビデオ 案内

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



ザ・マジックアワー
(映画、DVD)
ボニーキャニオン

街を牛耳るボスの愛人、マリに手を出してしまった手下の備後。命の代償に伝説の殺し屋“デラ富樫”を連れてくると誓うが、期限が迫っても見つからない。窮地に陥った備後が取った苦肉の策は、映画監督のふりをして無名の俳優を雇い、殺し屋に仕立て上げることだった。(136分)



旭山動物園物語 オオカミの森 (絵本)
小菅正夫／著 あべ弘士／絵 角川書店／刊

旭山動物園の元園長、小菅正夫さんと元飼育係で動物絵本の第一人者、あべ弘士さんによるこん身の感動絵本。動物園にはジョンとリカというとても仲の良いオオカミの夫婦がいました。しかしリカががんにかかり、ガリガリにやせ細ってしまいます。リカは手術を受けるのですが…。



かあちゃん (一般書)
重松清／著 講談社／刊

親友をいじめた。誰からも助けってもらえなかったあいつは、自殺を図り、学校を去った。残された僕たちはそれぞれの罪を背負い、罰を受けて、1人の年老いた「かあちゃん」に出会った。母が子どもに教えてくれたこと、子どもが母に伝えたかったことを描く感動の長編作。

だいせつざんのすがお

大雪山の素顔

山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員などで活躍する人たちをリレーしています。高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」といわれる大雪山の素顔が見えてきます。

手つかずの自然

「原生林」「手つかずの自然」という言葉がありますが、さて日本にどのくらいそんな自然が残っているのでしょうか？ 国立公園のどの程度が手つかずの自然なのか、といわれると、僕たちも正直「う〜ん…」とうなだれてしまいます。

北海道には国立公園が6つあります。大雪山国立公園は、阿寒国立公園とともに北海道で最初に国立公園に指定された場所です(昭和9年に指定)。

その理由は単純明快！ 原始山岳環境が残っているのが非常に貴重だということでした。

そんな国立公園であっても、国立公園として指定されているエリアの中に人の手が加わっている場所はたくさんあります。保護のため規制がかかっている場所にもレベルがあって、そのレベルに応じて人の手の入り具合も違います。

一番規制の厳しい場所は「特別保護地区」という場所。旭岳でいえば、姿見の池園地を含む場所以上標高の高い所が指定されています。一部は人の手が入っていますが、本当に手つかずの自然が残っています。

山頂に登って周りを見回してみると、信じられないほど壮大な森の景色が広がっています。

山へ登るたびに、大雪山のすこさは山頂ではなく、そのすそ

野に広がる広大な原生林ではないだろうか、と感じます。そんな大雪山ですが、先住民族であるアイヌにとってはどんな山だったのでしょうか。

大雪山はアイヌ語で「カムイミントラ」(神々の遊ぶ庭)や「ヌタプカウシュベ」(そこにいらっしゃる者)と呼ばれ、古くから信仰的であった山々なのだそうです。

大雪山には神様がいて遊んでいた場所ですが、では神様の遊びってどんなものだと思います？

先日、機会があって旭川の川村力ネトアイヌ記念館へ行ってきました。その時館長の川村兼一さんと大雪山の話になりました。

「大雪山はアイヌ語でカムイミントラと呼ばれていて、神様が遊んでいる場所なんだよ。神様が遊ぶってことは、火山を噴火させたり、川を氾濫(はんらん)させたり…。神様の遊びっていうのはスケールが大きいんだよ」という話を聞いて「なるほど」と目からウロコがとれた気分でした。

「神々の遊ぶ庭」という意味は、今まで原生林とばかりに広い土地の中で、人間くらいの大きさの神様がいて森の中でひっそりと遊んでいるのだ、と思っていました。

でもそうではなく、もっともっとスケールが大きい話で、大雪山は神様にとって、子供がおもちゃで遊ぶ感覚で遊ぶ場なんだ、ということが分かりました。

アイヌの感覚というものはなんと壮大なものだなぁ…と、しみじみ感動を味わいました。

先住民族アイヌの人たちが大きなスケールで敬い、畏敬の念を持って分け入ることさえ恐れていたカムイミントラ。大昔の環境を残すこの自然を、どうかそのまま次の世代へとずっとずっと残していきたい、と思います。

文：大雪山自然学校 沢辺 佳彦